



だいこん

ツルツルの肌の出来に 効果を実感



千葉県市原市 **泉水良仁さん**<だいこん>

2017年

農事組合法人姉崎大根組合が作る特産の「姉崎だいこん」は、優れた栽培技術と共同選別による品質やそろいの良さから市場評価が高く、高値で取引されるブランド品だ。同組合のメンバーの泉水良仁さん（取材当時45）は秋冬どり5ヘクタール、春どり6ヘクタールの延べ11ヘクタールで姉崎だいこんを栽培する。

■A品率が上がり収益向上

泉水さんが、ネグサレセンチュウ防除で「ネマキック粒剤」を使ったのは1月。JAからの勧めがきっかけだった。**4月にだいこんを掘り取って確認したところ「もともと線虫害の出やすい畑だったのに、肌がツルツル・ピカピカで、きれいな仕上がりになっていて驚いた」という。**

共同選別で厳しい品質・規格基準を守る同組合にとって、だいこんの品質を左右する線虫対策は重要だ。泉水さんは「少しでも肌の状態が悪いと、すぐB品に格下げされてしまう。でも、前作はネマキックを使ったことで線虫害が減り、A品が確実に増えて収益アップにつながった」と喜ぶ。

■選別の手間が減りスムーズに

もう一つ、泉水さんがネマキック使用のメリットに挙げるのが、選別しやすくなったことだ。線虫害によって白や黒のブツブツが付いたものが混じると、選別の際に手間がかかる上、不良品を見落とすリスクも増える。しかし**「最初から線虫害のない、肌のきれいな品がそろっていれば選別時の負担を減らせる。選別ラインもスムーズに流れる」と説明する。**

また**「今まで使っていた線虫防除剤と比較して、ネマキックはその効果を実感できる結果だった」と話し、この秋冬どりの分から線虫防除剤はすべてネマキックに切り替えたという。**

今後さらなる規模拡大をめざしている泉水さん。ネマキックの使用で、その経営に弾みがつきそうだ。

